令和４年度 IIRG
石川県口腔インプラント研究会 総会
特別講演会

「 一般開業医における
Intoraoral scannerを用いた臨床 」
”補綴装置製作からデジタルコミュニケーション”

特別講演会　講師

小池歯科医院　院長
神奈川歯科大学咀嚼機能制御学講座・インプラント学　非常勤講師
日本デジタル歯科学会　理事

小池 軍平 先生

講師プロフィール

1971年　神奈川県横須賀市出身

1996年　神奈川歯科大学卒業

1997年　神奈川歯科大学付属大学院
口腔外科第一口座　入学

1997年　小池歯科医院解説

2008年　神奈川歯科大学
咀嚼機能制御学講座
非常勤講師

2022年4月10日（日）
11：00～14：00

ITビジネスプラザ武蔵　4F
情報化研修室
リモート併催（ZOOM）

講演内容

光学式スキャナ(以下、IOS(Intoraoral scanner/IOS)持つCAD/CAM装置の国内導入から25年近くが経過し、当初の活用法は保存修復の製作に特化しており、その後クラウンなど補綴装置へと移行し、新たな材料の導入とともに活用の幅を広げていった。また、CTや3Dプリンターとの連携に伴ってインプラント治療への応用、口腔内情報を瞬時にデジタル化することにより、アライナー矯正など多岐にわたる用途に活用されるに至った。しかし、そのユニークなIOSの発想は当初コンサバティブな日本の歯科業界には到底受け入れられることもなく、一部のマニアの機械と軽く扱われていたことは否めない。

さて、保険診療に目を向けてみると、IOSの保険収載は今回は見送られたが、CAD/CAM装置で製作された補綴装置が積極的に導入され、2014年よりCAD/CAM冠が小臼歯に適応になり、歯科用金属の高騰も相まって、大臼歯、前歯と続々と導入され、2022年4月にはCAD/CAMインレーが導入された。今後、保険収載が期待されるIOSではあるが、一般的にそのシステムは高額であり一般診療所での導入へのハードルは依然として高い。しかしながら、最新のIOSは容易に口腔内情報をデジタル化することが可能であるため、当医院では歯科医師ばかりでなく、歯科衛生士の活用を積極的に行っている。

今回は導入より２０年の臨床経験を元に、補綴装置からデジタルコミュニケーションツールとしての活用法を供覧したい。